

# にちぎん

2023 NO.75

秋



インタビュー 扉を開く

**大木聖子** 地震学者・慶應義塾大学環境情報学部准教授  
命を守るための地震学

地域の底力

**山口県長門市**  
行政と市民、それぞれの危機感がまちを動かし始めた山口県長門市

対談 守・破・創

**伊勢正三** シンガーソングライター

**田村直樹** 日本銀行政策委員会 審議委員

心の琴線に触れる曲を作り続ける永遠のチャレンジャー

エッセイ “おかね”を語る

**吉本ばなな** 小説家 悔いのないあり方

とにかく計算が苦手なので、この金額の三割っていくらですか？と聞かれて計算機で計算してもなぜか元金より多くなってしまいうくらい（どういうレベルの間違いをしているかすぐ伝わりませぬ）なので、お金のつきあいがうまかったとは決して言えない。

ただ、お金を粗末にしたことはないと思う。常に生活の実験や、安心や、自分や家族の命のために使ってきたように思う。

十年ほど前に、もうすぐ辞めるといいうバイトの男の子に、ギリシヤを見てほしくて、アシスタント補佐としてわざわざ来てもらったことがある。別に連れて行かなくてもよかったしお金はかかったけれど、彼を思い出すたびにギリシヤで思い切って美容院に行き、めちゃくちゃかっこいいけれど再現が不可能な少年マンガみたいな髪型になって帰ってきたことを思い出す。

彼のそのチャレンジを見ることができて、よかったと思う。お金を惜しんでいたら得られなかった思い出だ。

私の母は、私にお金を要求するたびに「お金がない？ そんなはずはないじゃない。一度は長者番付に載ったのに！」と言っていたが、長者番付と言ったって一年だけで、しかも「作家の部」（それだけでも充分額は小さくなっていくのに）の末席であった。そのようなお金は税金としておおよそ七割くらいが去っていくので、私に残されたお金はローンで家が一軒買え



絵・江口修平

## 悔いのないあり方

吉本ばなな

るくらいのものであった。

そして信頼していた税理士さんに騙されて（杜仲茶の輸入の会社の連帯保証人になって、その会社がつぶれたということだった）、全く法的な効力のない借入書を用意され、わからずにお金を貸してしまい、大きなお金を失った。

このことが私にもたらしたのは、自分は決して連帯保証人にはならないと決めたことと、そのときのアシスタントが泣きながら、「私、お金を貸すところを見ていました。証人になれませ」と言ってくれたことの美しさだ。見てたからってどうしようもないのに、嬉しかった。

それから、私の父は死ぬ直前、ほとんど意識不明になりながら、「支払いのことで困ったら俺に言ってくれよ」とうわごとのように私に何回も言った。その病院から自分で支払いをして退院することは決してなかったのに。でもアシスタントの話と同じで、その言葉だけで心は大きな愛に包まれたように感じた。そう言ってくれる人を私は失うのだ、と思ったなら、怖くなかった。そしてこれまでのことを全てありがたく思った。

お金は諸刃の剣で、そういうわけで私も痛い目があったことがたくさんある。でも大切なのは、その剣を美しく使うことだ。自分の心にはそはつけない。

せめて手元に来てくれたお金をお客様のようにもてなして、大切に使い、手を汚すことなく悔いなく死んでいけたらと思う。

よしもと・ばなな●小説家。1964年、東京生まれ。日本大学藝術学部文芸学科卒業。87年『キッチン』で第6回海燕新人文学賞を受賞しデビュー。著作は30カ国以上で翻訳出版され国内外での受賞も多数。2022年『ミトンとふびん』で第58回谷崎潤一郎賞を受賞。近著に『はーばーらいと』など。



写真：Fumiya Sawa

2 エッセイ／“おかね”を語る

悔いのないあり方 小説家 吉本ばなな



4 インタビュー／扉を開く

大木聖子 地震学者・慶應義塾大学環境情報学部准教授

命を守るための地震学

9 地域の底力——山口県長門市

行政と市民、それぞれの危機感がまちを動かし始めた山口県長門市



16 対談／守・破・創

伊勢正三 シンガーソングライター

田村直樹 日本銀行政策委員会 審議委員

心の琴線に触れる曲を作り続ける永遠のチャレンジャー



20 日本銀行のレポートから (1)

「経済・物価情勢の展望」(展望レポート) — 2023年7月—

22 新しい日本銀行券の発行 日本銀行発券局

27 日本銀行のレポートから (2)

「地域経済報告」(さくらレポート) — 2023年7月—

別冊「地域の企業における人材確保に向けた取り組み」 — 2023年6月—

33 トピックス

金融研究所貨幣博物館特別展「新しい日本銀行券 2024 — 匠の技とデザイン—」開催 ほか



35 AIR MAIL from Paris

欧州で存在感を増すパリ金融市場

表紙のことば

日本銀行静岡支店は、昭和十八年（一九四三）六月に、二三番目の支店として、静岡市下石町（現在の葵区常磐町）に開設されました。

静岡支店が開設されるまで、静岡県内の業務は、駿河以東を本店が、遠江以西を名古屋支店が受け持っていました。業務量の増加や地方金融機関との連携強化等を理由に、静岡支店が設置されました。

表紙の店舗は、開設当時の初代店舗です。もともと、開設からわずか二年後の昭和二十年（一九四五）六月、第二次世界大戦の空襲で、金庫館を残してすべて焼失したため、呉服町にあった静岡銀行の店舗を買い入れ、同年十一月に移転しました。

昭和四十七年（一九七二）十月に移転した現在の店舗（三代目）は、葵区金座町にあります。慶長小判等を鋳造した「駿河小判座」に由来したこの地で営業を続ける静岡支店は、今年八〇周年を迎え、これからも静岡経済の発展に貢献してまいります。



表紙・画 北村公司

# 大木聖子

OKI Satoko

地震学者・慶應義塾大学環境情報学部准教授

地震学をバックボーンに新しい防災教育の研究と実践を進める大木聖子さん。人生の岐路にはいつも大災害があった。高校時代の阪神・淡路大震災、博士課程の頃の新潟県中越地震、そして若手地震学者だった頃の東日本大震災。これまでの地震学のあり方に疑問を持ち、「命を守る」ことを中心に置いた防災教育にたどり着くまでを、率直に語っていただいた。



# 命を守るための地震学

## 地球の声を聞きながら 社会と対話する地震学者

——大木先生は子どもの頃から地球科学や地震に興味があったのでしょうか。

大木 生き物が大好きな子どもでした。虫も全然平気。将来は生態学者になりたいと思っていましたが、中学生の頃、母が「きつと好きになるよ」と言っていて、地震学者が書いた一冊の本を勧めてくれたんです。その『教室ではおしえない地球のほなし』（注1）を読み、地震学は地球の生態学だと思いました。地震波を通じて地球内部が分かる。地球は生きていて、その上に私たち人間が「間借り」して暮らしているという世界観も得ました。それが、私と地球科学、地震学との出会いです。

地震学者になるとうという明確

なビジョンを持ったのは阪神・

淡路大震災（注2）がきっかけです。私が高校一年生の三学期、進路を決める頃の出来事でした。テレビで同じ年くらいの子が泣いているのを見て、なぜこんな地震が起きたのか、そのメカニズムを理解し、地震の被害を防ぐために、地震学者になろうと考えたのです。

——北海道大学で地震学を学ぶことになりました。

大木 あの本の著者が教授をさされている理学部の地球惑星科学科に進学しました。地震のような地球上で起きる現象を物理学の手法で解明する学問分野で、「言語」となるのは数学です。数学を使いこなせないと現象を説明できない。プログラムを書い

て地震波を周波数に分解し、来る日も来る日も数学漬けで……

いつになったら地震学が始まるのかと、大学の四年間、そして東京大学の大学院に進んでも、そう思っていましたね。その間は、昨日書けなかったプログラムが今日は書けたとか、自分がスキルアップしていくことに楽しみを見いだす感じでした。

——そうした地震学との向き合い方が変わったきっかけがあったのですか。

大木 博士号の取得がある程度みえてきた頃に、新潟県中越地震（注3）が起きたんです。この地震は地震学的に特殊で、余震が非常に多かった。群発的に大きな地震が続いたんですね。その余震で家が倒壊し、亡くなった小学生の女の子がいました。最初の揺れが起きた時、彼女は風呂に入っていました。祖母が声を掛け、「早く出ておいで、

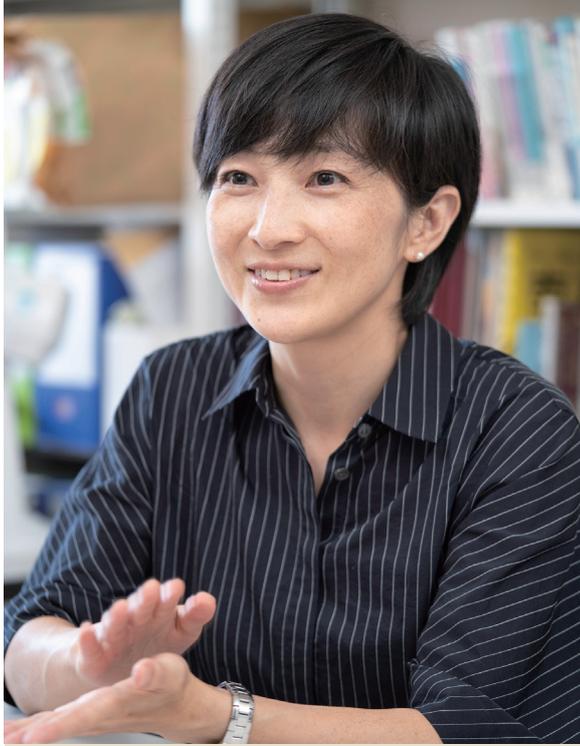
下着はちゃんと身に着けるんだよ」と。「今出るよ」という返事の直後、二回目の揺れ。余震が襲いました。脱衣場で家の梁の下敷きになっていたご遺体は下着を着けていたそうです。

この話を聞いて、こういう被害をなくすために自分は地震学者を志したのだと思い出しました。それと同時に、当たり前のことにも気付かされたんです。私は博士号が取れそうなどころまで勉強してきたのに、地震は目の前で大きな被害を出している。私が地震学者になることと地球が地震を起こすことには、何の相関もないのだと。その日

（注1）地震学者で北海道大学理学部教授の島村英紀氏が執筆。講談社ブルーバックスから一九九一年に刊行。

（注2）一九九五年一月十七日午前五時四十六分に発生した兵庫県南部地震（マグニチュード七・三）による災害の呼称。淡路島から神戸市にかけて延びる野島断層がずれ動いた。

（注3）二〇〇四年十月二十三日午後五時五十六分、新潟県中越地方を中心に発生（マグニチュード六・八）。さらに震度五弱以上の地震は午後七時四十八分まで立て続けに一〇回発生した。そのうち、震度六強以上の揺れが二回あった。



を境に私は目指す方向が変わりました。

——物理的な手法で地球と対話するだけではなく、人々や社会と対話する地震学者を志向するきっかけになった、ということですね。

大木 はい、そうです。もし「今すぐ、裸でいいから出ておいで」と女の子に伝えていたら、結果は違ったかもしれません。大きな地震が起きた後には余震でも被害が発生します。これは地震学者なら誰でも知っていることですが、われわれ地震学者が人々に一生懸命に伝えてこなかった

から、こんな結果を招いたのだと思わざるをえませんでした。

私には、今まで勉強してきた

## 東日本大震災の一年前に 出会った東北の中学生たち

——多くの人は地震学者に、地震を予知してほしいとか、防災について教えてほしいと考えているのではないのでしょうか。学問としての地震学と社会が求めている地震学の間には、ギャップがあるように感じます。

大木 地震学者をかかりつけの

分だけ、地震の知見はある。それを人に伝え、人と対話する地震学者になりたいと思ったんです。

お医者さんと同じような存在に見ている人も少なくないと思いますね。一番適切な防災グッズは何かとか、今住んでいる場所の地盤は大丈夫かとか、学者に聞いてみたいという人がいても不思議ではありません。ただし、そうした問いに多くの地震学者がすぐ答えられるかというと、難しいでしょう。地震学の実態は固体地球物理学なんです。だから、地震学者が話すとなると、地震のメカニズムとか地球の中の説明になってしまふんですね。

新たな動きが出てきたのは、日本では二〇〇〇年を過ぎた頃。研究の現場と一般の人たちをつなぐ国の政策として「科学技術コミュニケーション」が始まりました。地震学の世界でも社会とコミュニケーションを取る専

門のポジションを作ることになりました。ただ、当初は嫌がる地震学者もいましたね。

——なぜ嫌がるのでしょうか。

大木 「科学を社会に向かって分かりやすく伝える、そういう行為自体が下世話だ」という声が出ましたし、「地球を相手に崇高な研究を続けてきたのに、急に人も相手にしろというのは抵抗がある」という人もいました。その時、思い出したのが米国の天文学者で作家のコール・セーガンです。彼はテレビの科学番組を担当し、宇宙について平易に語って宇宙ファンを一挙に増やすという、科学コミュニケーションの分野で素晴らしい実績を上げたのに、全米科学アカデミーからは評価されずに干されたんですね。科学エッセイストとして活躍した古生物学者のステイヴン・ジェイ・グールドも、「研究者ではなく物書きにすぎない」と陰口をたたかれていた。でも、それについてどう思いますかとインタビュをされた時、彼は一言、「ジェラシーさ」と答えたということです。

おおき・さとこ ● 1978年大阪府生まれ。東京都足立区で育つ。私立頌栄女子学院高校1年生の時に起きた阪神・淡路大震災を機に地震学を志す。2001年北海道大学理学部地球惑星科学科卒業。2006年東京大学大学院理学系研究科にて理学博士号を取得後、カリフォルニア大学サンディエゴ校スクリプス海洋学研究所にて日本学術振興会海外特別研究員。2008年4月より東京大学地震研究所広報アウトリーチ室助教。2013年4月より慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス(SFC)環境情報学部准教授。専門は地震学・災害情報・防災教育など。主な著書に『地球の声に耳をすませて—地震の正体を知り、命を守る—』(くもん出版)、『地震防災ははじめの一步』(東京堂出版)、『超巨大地震に迫る—日本列島で何が起きているか』(共著・NHK出版新書)などがある。

——二〇〇八年からは東京大学地震研究所の広報アウトリーチ室で、地震学で得た知見を伝える活動を始められました。

大木 地震が起きた際、報道対応をしながら、地震研のホームページを通じて地震のメカニズムなどの情報を社会に発信してました。そのほか、文部科学省の支援事業に採択され、小学校で防災教育を始めたのもこの頃です。修学旅行生が自由見学で地震研に来てくれた時も、私が対応をしていました。

中でも強く印象に残った修学旅行生が、東北沿岸部の中学生たちでした。地震や津波のメカニズムといった私の話にすごく熱心に耳を傾け、質問が止まないほど。二〇一〇年四月のことでした。

——約一年後、東日本大震災（注4）が起きました。どのような思いで向き合われましたか。

大木 多くの方が大地震、そしてその後の大津波にのまれて亡くなった現実と直面し、私は地震学者を名乗り、大学のアウトリーチ室にもいたのに何をして

いたんだろうと。自分が手をかけて死なせてしまったと思うくらい、なんていうことをしてしまっただろうと思ひ詰めて、すごく怖くなりました。

あの東北の修学旅行生たちは、どうなったのか。グループパースオンファインダーで、一人ひとりの無事を確認し続けました。見学に来た日の私の講義はあれでよかったのだろうか。いやそ

## 「自ら判断できる力」 防災教育を通じて養う

——東日本大震災後、全国各地で防災教育を進められました。

大木 「来てくれ」という学校が一気に増え、防災教育の需要の高まりを実感しました。その頃、私にとって幸運だったのは慶應義塾大学SFCに移ったこと

です。東京大学地震研究所では防災教育の実働部隊はほぼ私だけでしたが、SFCでは「やりたい」という学生がどんどんゼミに入ってきてくれたんです。SFCは研究しつつ学生を

うじゃない。「大事なのは、あなたの命なんだよ」と、もつと強調しておけばよかったと悔やみました。もし、あの子たちが助からなかったら、私の責任だと感じていたんです。そして、地震や防災の知識だけでは十分ではなく、「あなたが生きていることが大事なんだよ」と言い合える社会になることが防災には必要なのだと、気付かされました。

育てる方針なので、一年生からゼミに入れます。彼らはダンスや紙芝居を取り入れた防災教育を提案しました。私には絶対に思いつかないやり方もできるよ

うになったんです。防災教育は、地震学が分かっているなくても、「大切な人の命を守りたい」といった気持ちが根幹にありさえすれば、誰がやってもいい。私は地震学から防災教育へしみ出ていきましたが、教育学や心理学、災害医療など、ほ

かの分野の専門家たちもそれぞれの知見を武器に防災教育へ少しずつ出てくれば、お互いに手をつなぐことができます。実際、専門家同士の連携で防災教育の空白地帯のようなところが徐々に埋められてきたと思います。

——防災とは学際的な分野で、さまざまな知見が必要ということですね。

大木 そうです。ただ、防災は体系的な学問にはなっていない。その一歩手前の防災論にもなっていないんですよね。ちよつと不思議な感じですが。

——金融教育であれば全国どこでも同じような内容で展開することが可能ですが、防災教育の場合、地理的条件などに応じてオーダーメイド的にやらなくてははいけないのではと思います。

大木 まずは、地震が起こった

（注4）二〇一一年三月十一日午後二時

四十六分に発生した東北地方太平洋沖地震（マグニチュード9.0）およびこれに伴う原子力発電所事故による災害の呼称。震災後、日本地震学会は研究の成果や限界が的確に伝わっていきなかつたという反省に立ち、「行動計画2012」をまとめた。

ときに机の下に入るとか、津波が来ない高台に逃げるなど正解が決まった行動ができるようになること。それに加えて、個別事情に応じて必要な行動を自ら考え、実行できれば、人的被害は大きく減るでしょう。ただ、必要な行動といっても「正解」は一つではないし、私が教えることもできません。命を守れたら、それが「正解」なのですが、どう行動するかは一人ひとり考えるしかない。防災教育で大事なのは、実践的な訓練で試行錯誤しつつ、自ら判断する力を養うことです。

保育園や幼稚園は、なかなか防災教育を届けられていない相手なんです。私の息子が保育園の時、その園に訓練の実施を提案してみたら「来週やってみますね」と即答してくれました。小中学校では最速でも「次年度やります」だったので驚きました。保育園はカリキュラムが柔軟で、こういった対応をしていただけました。しかも、実際にやってみたら、子どもたちは想像以上にいろんなことができた

んです。普段から縦割り学習があるので、年上の子が年下の子に自然と指導していたり。そんな様子を見て、保護者も熱心に学習していました。保育園や幼稚園での防災教育を国が戦略的に進めれば、親子両世代の教育を同時に進められるのではないかと思います。

——防災教育の「現在地」は、どのあたりにありますか。

大木 東日本大震災の前から防災教育に関わっていた研究者たちと目指したのは、三・一一後の一〇年プランでした。一〇年間、防災教育を続けていけば、一二歳の小学六年生の何人かは二二歳の新人教師になり、自分が受けてきた防災教育を行う立場になる。さらに一〇年経てば三二歳になって親になり、家庭でも親から子へと伝えられる。だから、最初の一〇年ほどにかく良質な防災教育を提供して、担い手が増えていくサイクルをつくらうと。

でも今、「あれっ？」というのが正直なところです。学校間で温度差があるからです。及第

点の学校もあれば、一〇年前と全然変わっていない学校もある。私の小学校時代と同じような避難訓練——校庭へ全員で走り出し、先生がストップウォッチで時間を計るような訓練を続けている学校もあります。

いつ起きるか分からない地震のためと思うと、学校が防災教育を後回しにしたいくなるのも分かります。そうではなく、子どもたちが自分たちは一人も死んではいけないと思えるようにする、いま自分がすべきことは何かを自分たちで判断する力をつける、こうした大事なことを身に付けられることに意味があると思うんです。学校運営の中でこのように考えてもらえれば、今すぐに防災教育に取り組んでもらえるのではないのでしょうか。

——二〇二三年は関東大震災（注5）から一〇〇年の節目です。

大木 過去の記録を調べると、関東大震災クラスの大地震はおおむね二〇〇年周期で起きており、その後半の一〇〇年間にはマグニチュード七クラスの地震が頻発しています。いま首都直

下地震として懸念されているのは、このマグニチュード七クラスの地震です。これはこれから必ず起きます。しかも複数回、というのが歴史が示していることです。

でも、防災対策を適切に行って備えれば、内閣府が想定するような被害は回避できるはずですよ。地震の発生は止められませんが、人を殺すのは地震の揺れそのものではなく、建物の倒壊や家具の転倒、そして火災です。家を耐震化して家具を固定する。これだけで被害が九割減るのです。

私の息子を含め、今の子どもたちが大人になったときに「昔、日本では地震で人が死んだって本当なの？」と言わせたい。それが私の大きな夢です。

——本日は、ありがとうございました。

（注5）一九二三年九月一日午前十一時五十八分に発生した大正関東地震（マグニチュード七・九）による災害の呼称。震源は相模湾北西部。死者・行方不明者は約一〇万五〇〇〇人と、近年の大震災に比べ圧倒的に多い。

（聞き手／情報サービス局長・小牧義弘）

地域の底力——山口県長門市

# 行政と市民、 それぞれの危機感が まちを動かし始めた 山口県長門市

広がる美しい森と海、恵まれた食、温泉。  
山口県長門市は自然の恩恵のもと、  
これまで日常の営みを重ねてきた。  
その豊かさの陰で進行していた  
時代の流れを目の当たりにし、  
行政、民間の双方から風が吹き始めた。

取材・文 山内史子  
写真 野瀬勝一

山口県長門市の「北長門海岸国定公園」内、標高333メートルの高台に草原が広がり、日本海の美しい景色が望める「千畳敷」。長門市内の海岸線の全てが国定公園に含まれており、風光明媚な眺めが続く。

## 流れる時代を受け止め 動きだした行政と市民

山口県北西部、日本海に面して東西に広がる長門市は、人口約三万一〇〇〇人を有する。一帯の歴史は、七世紀後半に成立した長門国が礎。北長門海岸国定公園に指定された沿岸部は自然が織りなす美しい景色が続き、油谷湾、深川湾、仙崎湾と、山陰地方では数少ない湾が三カ所にあることから漁港として、その昔は北前船（まげぶね）（注1）

の寄港地としても賑わってきた。

立地を活かした漁業、市面積の約七割を占める森を舞台とする林業、米づくりを中心とした農業、これら第一次産業が経済の要。加えて、古くから続く温泉郷が五地域あるなど、観光地としても長い歴史を刻んできた。しかしながら、近年は人口の減少や住民の高齢化が進んでいる。

東京での大手銀行勤務を経た後に帰郷し、二〇一七年に長門市議会議員、二〇一九年からは市長を

務める江原達也氏は、地域についてこう語る。

「長門市は豊かな自然とともにおいしい食に恵まれていますが、それが毎日の暮らしの中にある普通のことだったため、多くの人は外に出てはじめて魅力に気付く。人の気質はおおらかでやさしい一方、将来への危機感は薄かったと思います。東京でも地元紙を購読して故郷に思いを寄せていましたが、帰るたびに過疎化が進んでいるのが気がかりでした」

江原氏が市長就任後に真っ先に手掛けたのは、高齢者が通院や買い物の際に頼れるデマンド交通（注2）の導入だ。自宅から市内の主要な場所への移動など利用者のニーズに応じて稼働している。また、量販店の協力を得て郊外へと赴く移動販売車のサービスも始まった。若い世代に向けては、働く場所の確保に重きを



豊かな海の恵みを活かし、室町時代から続く製塩法「天地返し」の技法を用いる油谷地区の「百姓庵」では、海水に近いミネラルバランスの塩がつくられている。



置いていると江原氏は話す。

「人口減少対策で肝心なのは、いかに子育て世代に選ばれるまちをつくっていくか。そのためには魅力的な働く場所の選択肢を増やす必要がありますが、市の規模を考えれば、外の方々の力を借りることも大切であると思っています」

例えば農業では、耕作放棄地を活用し有機農法を手掛ける大手企業を誘致。有機農法は土づくりを要するが、耕作放棄地なら転用が容易という発想だ。二〇二三年三月には中国地方初の「オーガニックビレッジ」を宣言し、今後の姿勢を明確にした。効率的なスマート農業などを含め、後継者の背中を押す取り組みも展開されている。

「市民の小さな声もきちんと拾い、形として残るものにとられず、デマンド交通のようなソフト面の充実を進めていきたい」と話す、長門市長の江原達也氏。背景は、多くを森の緑が占める市域の航空写真。



（注1）江戸時代から明治時代に、大阪から下関を経て北海道に至る「西廻り」航路に従事した日本海側に船籍を持つ海運船。

（注2）あらかじめ決まった時間帯に決まった停留所を回るのでなく、予約を入れて指定された時間に指定された場所へ送迎する交通サービス。

江戸時代後期に、長州藩の藩政改革を指導した村田清風旧宅「三隅山荘」。隣接する「村田清風記念館」では、清風やその遺志を引き継いだ周布政之助の功績が展示されている。



漁業ではもともと、トラフグをはじめとした養殖業が盛んだったが、アワビの中間育成、赤ウニの養殖などあらたな事業も手掛けられるようになった。林業では

環境保全を考えた採算を得る、持続可能な「自伐型林業（注3）」が広がりつつある。

また各地で同時多発的に、市民がまちを思いながら動き始めているのが興味深い。

「例えば商店街や各地域の活性化は、行政ではなく民間がリードすることが大事だと思っています。行政は環境整備等でサポートに注力する。そういう流れが、長門市のあちらこちらで生まれています」

公と民が総力を尽くし  
生まれ変わった温泉郷

組織作りと地域の活性化において全国から注目されるのが、室町時代から続く長門湯本温泉だ。山口県最古の温泉郷として栄え、昭

和五十八年（一九八三）には年間三九万人の宿泊客を数えたが、その後は右肩下がりを続け、平成の終わりには半減した。

「宴会やカラオケなど団体客に向けた楽しみが、昭和の日本の温泉旅館の主役。しかしながら旅のスタイルが徐々に団体から個人へ、周遊から滞在型へと変わる中、長門湯本温泉はニーズに対応できていませんでした」

そう振り返るのは、DMO（注4）、ローカルデベロッパ、地域振興の機能を掲げて二〇二〇年に設立された「長門湯本温泉まち株式会社」のエリアマネージャー・

「地域の多様性や地元の人が大切に思うことに寄り添うような旅の在り方を伝えたい」と話す、長門湯本温泉まち（株）エリアマネージャーの木村隼斗氏。



長門湯本温泉を流れる音信川には複数の川床が設けられ、散策の際の憩いの場になっている。



木村隼斗氏だ。木村氏は二〇一五年、地方創生人材支援制度で経済産業省から長門市に出向して以来、地域の経済観光事業に広く関わってきた。

そんな長門湯本温泉は二〇一四年、老舗旅館が廃業したことをきっかけに転機を迎えた。市が買い取り解体を進めた跡地に「星野リゾート」の施設を誘致する敷地単位の再生だけでなく、温泉街全体の「面的再生」を目指す「長門湯本観光まちづくり計画」を二〇一六年に策定。人気温泉地ランキングトップ10入りを目指す「長門湯本みらいプロジェクト」がスタートした。

「皆が危機感を共有していましたが、代わりとなる施設の誘致だけでは点の再生でしかありません。関係者が意見交換を重ね、公共財である温泉街にてこ入れ



石屋真梁禪師が一四一〇年に開創した大寧寺は、かつて「西の高野」といわれたほど隆盛を誇った。第三世住職の定庵禪師が住吉の大明神の導きで長門湯本温泉の恩湯を発見したといわれ、現在も湯源は寺が所有する。

面を整備が必要だという考えに至りました」

景観や文化体験、回遊性などがあたらしい温泉街の要素として掲げられ、後に「長門モデル」ともいわれるプロジェクトは進む。

「専門家や行政の担当者、地元の若手が課題への具体的な解決策を提案する『デザイン会議』と、市長や旅館組合などの関係団体の重鎮がオープンな形で議論をして意思決定する『推進会議』。その双方が、スピーディーに事業を進めていくためのプロジェクトの柱でした」

ほかにも地域住民とのワークショップや社会実験が何度も開か

（注3）採算性と環境保持を両立するために、森林の経営や管理等を山林保有者が自ら行う林業。

（注4）Destination Management Organization（デスティネーション・マネジメント・オーガニゼーション）の頭文字の略。観光地域づくり法人。



外湯が楽しめる恩湯は源泉が岩板から湧き出る場所に立ち、浴槽の足元からも直接温泉が湧き出る、全国でも希少なつくり。

数百本の竹林が両脇を彩る石段は夜間にライトアップされ、温泉街のそぞろ歩きに風情をもたらす。



れ、温泉街の散策に関わる道路や川床といった公共の場所は市や山口県との調整が重ねられる。店舗など各所のリノベーションは、地域住民だけではなく学生たちも参加した。周囲を広く巻き込んだ動きを、木村氏は「公民総力戦」と表現する。

「関係者の思いが深まり、新規の店舗や事業が生まれるケースも多々見られました。各旅館の皆さんが自らリスクを負って投資するなど、新しいチャレンジができる土壌があることに惹かれた自分も、大きく巻き込まれたひとりです」そう笑う木村氏は、二〇一九年に経済産業省を退職して現職に至る。竹林が囲む階段や川床の飛び石といった景観が整った二〇二〇年、星野リゾートの新規温泉ホテルがオープン。さらには、老朽化していた外湯「恩湯」が、モダンに生まれ変わった。コロナ禍の最中ではあったが、関係者の展望は明る

(か) 環境を守る、(き) 木の文化を伝える、(く) 暮らしに木を取り入れる、(け) 経済を活性化させる、(こ) 子どもの心を豊かにする。これら5項目を木育の「かきくけこ」として、岩本美枝氏が理事長を務める「NPO 法人 人と木」は活動の輪を広げ続ける。岩本氏が手をかけているのは、木製の観光船を再生させた小さなキッズクルーズ船「弁天」。



かったと木村氏は話す。

「皆が見据えているのは、二〇年、三〇年先。未曾有の事態であっても永遠に続くわけではないと、前向きだったのが印象に残っています」

より多くの若い世代に関わり始めた現在も、「みらい」に向けたプロジェクトは歩み続ける。

### 多くの人の心に響く 森が支える木育活動

長門市では二〇一七年に、行政と民間が連携して森林資源を活かし、木育を推進する「ウッドスタート」を宣言。その流れから二〇一八年に誕生した「長門おもち美術館」も、話題を集める存在だ。木製のおもちの展示販売



に加え、地元の木材をふんだんに使った広々とした空間が設けられ、子どもたちは木のやさしい質感にふれながら遊ぶことができ。美術館は仙崎湾に面し、湾を巡る「キッズクルーズ船『弁天』」も注目の的だ。

運営を担うのは、二〇一六年から木育を進めてきた「NPO 法人 人と木」。理事長の岩本美枝氏に背景を伺った。

「裏山に行ったり、海に潜ったりと、長門の子どもにとって昔は普通だった遊びが今は容易にはできませんから、機会をつくる必要があると考えようになりました。ただ木を切るだけでも、経験のない子どもにとっては面白いんです。さらには美術館を木育の拠

点として、地域活性化につながるのも私たちの目的の一つです」

森林散策や伐採の見学、専門家の力を借りたおもちの製作といった体験プログラムの展開など、木育の場は美術館の外にも及ぶ。なおかつ、木育の恵み

は子どもだけではなく、美術館でのおもちの遊び方を伝えるボランティアスタッフ「おもちや学芸員」など高齢者の心にも温もりをもたらしていた。

「現在一五七名いる学芸員の多「おもち美術館」は二〇二三年の時点で全国に一二館あり、長門の施設は二〇一八年に誕生した。ワークショップで子どもたちがつくった、四〇〇個以上の木製の卵で遊べる「木のたまごボール」をはじめ、オリジナルティアーあふれる積み木が多数。木とのふれあいを通じて、木について学ぶことのできる空間。





仙崎地区の海沿いにある道の駅「センザキッチン」には、新鮮な魚介類や特産品の販売、10軒以上の飲食店を目当てに多くの人が訪れる。長門おもちゃ美術館は、このセンザキッチンの敷地内に位置する。



北長門海岸国定公園内、石柱や奇岩が美しい絵を描く「青海島」は、観光遊覧船で巡ることができる。遊覧船の基点でもある仙崎漁港は、下関漁港に次ぐ山口県内2位の漁獲量を誇る。

## 子どもたちが誇れる 焼き鳥のまちを目指す

日本有数の専門組合があるほど

朝びきの鶏肉を使う焼き鳥は、あっさりとしたたれや塩味で調味するのが長門流。市民にとって外食の定番だが、一方で人手不足が

「市内に大学がないこともあり、アルバイトのなり手が少ない。若い世代は、利便性の高い大きなまちに行ってしまう。次世代につながるためには、子どもたちが焼き鳥をまちの誇りに思える状況を育てていかなければと思っています」  
その一環として小中学校で行われるのが、協議会メンバーの指南のもと、七輪で炭をおこすところ

「幼稚園や学校が減り、まちがだんだん寂れていくのを皆が目当たりしています。このままではいけないという思いを、多くの人が抱いているのではないでしょうか」

数え、まちおこしの起爆剤になっていると話すのは、「長門やきとり横丁連絡協議会」会長の青村雅子氏だ。長門湯本温泉の店舗を含めて四軒の飲食店を営む「株式会社Homey」の代表取締役でもある。

くは退職された高齢者で、あらたな生きがいとされている方もいらつしゃいます。市の高齢福祉課の協力により高齢者向けのアクティビティーも開催しています。が、おもちゃは世代を超えて喜んでいただける魅力があります」  
ほかにも障害者向けの事業、林業の従事者との連携、建設会社や工務店での大人向けの研修など、木育を軸とした活動は実に多彩に広がり続けている。

養鶏業が盛んなのも長門市の特徴だ。新鮮な鶏肉を仕入れやすいため、いつしか人口一万人当たりの焼き鳥店の数が全国トップクラスに。現在は二五軒以上を



上/写真の「ちくぜん総本店」、長門湯本温泉恩湯の飲食棟「恩湯食」を含め、市内で4軒の飲食店を営む(株)Homey代表取締役の青村雅子氏。青村氏の実家は代々、大寧寺の寺侍として温泉の管理を担ってきた。

下/鶏肉のおいしさが際立つ長門市の焼き鳥はそのままでもうまいが、地元では一味・七味唐辛子に加えガーリックパウダーを薬味として使う人が多い。



深刻な課題だと青村氏はいう。

「市内に大学がないこともあり、

アルバイトのなり手が少ない。若

い世代は、利便性の高い大きなま

ちに行ってしまう。次世代につな

ぐためには、子どもたちが焼き鳥

をまちの誇りに思える状況を育て

ていかなければと思っています」

その一環として小中学校で行わ

れるのが、協議会メンバーの指南

のもと、七輪で炭をおこすところ



上/コロナ禍による売り上げ減少への対策として作成されたマップ「5. 飯友ながと」は、テイクアウトの対応を含めた市内の飲食店情報を網羅している。左/地産地消を目指し炭焼きに取り組む、「やきとりっちゃコール」プロジェクトの皆さん。右から3番目が青村氏。

から始める「焼き鳥教育」だ。さらには、福岡県久留米市をはじめ焼き鳥店の多い地域とも積極的に手を取り合い、全国的な焼き鳥のイベントを長門市で開催すべく尽力してきた。

「姉妹都市のロシア連邦ソチ市のほかモスクワ、イタリアなど、海外のイベントに参加したこともあ



「自然を守り人とつなげていくのが、自分の課題の一つ。ゆくゆくは子どもたちがより自然とふれあえる、あらたな学校をつくりたいと思っています」と話す「クリエイティブ会社うみ」の田島大幹氏。

「これまでご縁のなかった飲食店さんとのつながりが生まれたり、給付金や融資の情報をご存じない方のお力になったりと、飲食店の絆が深まりました。小さいまちだ

コロナ禍の困難な時期は、焼き鳥店だけでなく市内の飲食店が一つになった。当時、長門料飲組合長だった青村氏が中心となり、テイクアウトのマップ「#飯友なご」とを作成したという。

加えて現在、協議会では林業事業者などの協力を得て、質の高い炭の生産開発にも挑んでいる。先々目指すのは、調理後の灰を山や畑に返す循環型のしくみだ。

ります。焼き鳥を介して、長門にいても国内各地や世界とつながれることを、子どもたちに伝えていきたいですね」



ジェラートを販売するキッチンカー。(photo by megumi)

## 棚田の再生を願う住民の取り組み

から、皆さんの距離が近い。行政に対しても声が通りやすく相談しやすいのが、長門の良さだと思います」

長門市を巡りながら、幾度となく感銘を受けたのは日本海を望む景色の美しさだ。「つなぐ棚田遺産」の一つ、油谷後畑地区の東後畑棚田でも、海の青に彩られた景観に魅了された。

青空の下、海を眺めながらゆったり過ごせるブランコ。



夕景に彩られた、東後畑棚田の景色。季節によっては、イカ釣り船のいさり火が海上できらめく。

「クリエイティブ会社うみ」を運営する兵庫県出身の田島大幹氏だ。自給自足に興味を持ったのがきっかけで、二〇一六年に移住した。「自給自足は、個で終わってしま

活動の拠点は平成の半ばに廃校

存会とともに活動をしているのが「自給自足は、個で終わってしま

う。今は視野を広げて、地域を考

特産品「長門ゆずさち」のほか

童謡詩人として知られる金子みすゞは、仙崎地区の出身。長門おもちゃ美術館近くの「金子みすゞ記念館」では、享年26歳で夭逝したその生涯をたどれる。記念館に面するみすゞ通りでは、モザイク画や地元の情景画を見ることが出来る。



「はじめて来たけれど、長門にこんな良い場所があったんだ、とい

地元の食材を使うジェラートは、やがてちまたの話題に。まちなかで営業していたほかのキッチンカー事業者も参加するようになり、週末の棚田は多くの人が憩う場になっている。

活動拠点である、旧文洋小学校。



う方が増えています」

田島氏はデザイン事務所勤務の経験を活かし、制作物を担うなどして保存会の活動にも参画。ジェラートを目当てにこの地を訪れ、棚田の保存に興味を持つ人も見られるという。

### 公と民の双方が重ねる あらたなチャレンジ

二〇二三年二月、長門市では専門学校跡の建物をIT企業のシェアオフィスとして再活用する集積拠点施設整備計画を発表。毛利家直轄の湯治場だった俵山温泉では、若い世代の移住者を中心とした活性化が目玉を集める。

「北前船の寄港地や歴史ある温泉郷として昔から人が行き来してい

たこのまちには、外の人を広く受けとめる心が受け継がれているのかもしれない」

そう話す市長の江原氏によれば、前例や慣習にとらわれがちな役所にも変化が見られるという。

「私は極力、職員と直接コミュニケーションを取る機会をつくるよう努めています。企業人でありましたので、民間の視点からの意見やスピード感と変革意識の大切さを繰り返し語る中で、皆、一生懸命考えながら対応してくれています」

長門市を歩いて印象に残ったのは、まちの未来を思う方々が行政とも連携して立ち上がり、歩みを進める、いくつもの小さな渦ができていく状況だった。皆さんの笑顔を振り返り、地元

出身の詩人、金子みすゞの詩の一節が胸をよぎる。

「みんなちがって、  
みんないい」

それぞれの声ややがて共鳴し、次のステージへとつながる、そんな先々が思い描かれた。



俵山温泉では、行政と民間が連携した地域マネジメント会社の設立構想や、空き家、空き店舗のリニューアルなど、温泉街の活性化に取り組んでいる。



東後畑棚田の中ほどに位置する棚田の花段の広場が、田島氏のジェラートショップのほかキッチンカーが週末に並び、ブランコやハンモックでくつろげるエリア。

# 守破創

対談

「なごり雪」「22才の別れ」などのヒット曲で知られるシンガーソングライターの伊勢正三氏。多くの人の心をつかむメロディーや詞はどのように生まれたのだろうか。「中学生の頃から正やんマニア」と語るほど熱狂的ファンの田村直樹審議委員と、世の中に伝わる言葉の選び方について語り合う。



日本銀行政策委員会 審議委員

## 田村直樹

TAMURA Naoki

1961年京都府生まれ。84年京都大学法学部卒業、同年、(株)住友銀行入行。2009年(株)三井住友銀行東武池袋ブロック部長、10年同銀行関連事業部長、12年同銀行執行役員投融資企画部長、14年同銀行執行役員(特命)、15年同銀行常務執行役員広報部・経営企画部・関連事業部副担当役員、17年同銀行常務執行役員リテール部門副責任役員、18年同銀行専務執行役員リテール部門統括責任役員、21年同銀行上席顧問に就任。22年7月より日本銀行政策委員会審議委員。

## 心の琴線に触れる曲を作り続ける 永遠のチャレンジャー



シンガーソングライター

## 伊勢正三

ISE Shozo

大分県津久見市生まれ。71年、大分県立大分舞鶴高等学校の先輩だった南こうせつと、山田パンダとともにフォークグループ「かぐや姫」を結成、「神田川」などのヒット曲で一世を風靡する。75年、大久保一久とフォークデュオ「風」を結成。80年、ソロとして武道館コンサート。代表曲に「なごり雪」「22才の別れ」「海岸通」「ささやかなこの人生」など多数。これまで8枚のアルバムでチャート1位を記録。楽曲の多くがさまざまなアーティストにカバーされている。デビュー50周年を迎えた今もソロのLIVE、CDリリース、楽曲制作、コンサートプロデュース、他のアーティストとのコラボレーション等、精力的に幅広く活動している。2022年、使用楽器や愛用品を展示した資料館「伊勢正三ミュージアム」[海風音楽庵 UMIKAZE ONGAKUAN]が大分県津久見市に開館。最新アルバム『STILL MORE』(2023年9月6日リリース)。

南こうせつ先輩の  
誘いに乗って  
大分から上京し、  
音楽活動に専念

**田村** 私は中学生の頃からずっと「正やんマニア」でして、もう50年くらいになります。就職面接のときにも、尊敬する人物を聞かれて、「伊勢正三さん」と答えたぐらいです。

早速ですが、これまでの音楽活動について伺います。伊勢さんは高校で南こうせつ(注1)さんと出会い、大学進学で上京された後にフォークグループ「かぐや姫」(注2)に参加されました。その際、音楽活動に専念するため、大学は中退されています。

**伊勢** 親からは九州の国立大学に進めと言われていたのですが、こうせつ先輩から「かぐや姫」に誘われていたため上京を決めました。本気で音楽をやる以上、大学に行かなくなるのが目に見えていたので、親に無駄な出費をさせないためにも中退しました。

**田村** ご両親から反対されなかったのですか。

**伊勢** 母は反対しなかったけれど、

保守的な考えの父からは、暗黙のプレッシャーがありましたね。

でも、少年時代はすごく自由に、伸び伸びと育ててくれました。以前、俳優の渡辺謙さんから「伊勢さんって中二病(注3)ですよ(笑)」と言われたんですが、感性が思春期のままとという意味では、本当にそのとおりだな。今でも僕は、自分の原点は中学時代にあっただと思っています。

**田村** 私が正やんマニアになったのも、中学二年生のときです。「風」(注4)の最初のアルバムが出た頃で、そのときにギターを買ってもらって歌い始めました。

今でも高校時代の同級生と山小屋に行つて、夜中までギターを弾き、当時の唄、「ささやかなこの人生」なんかを歌いまくるのですが、その意味では、私も中二病ですね。**伊勢** 熱いですね。僕も初めてギターを持ったのは中二のときでした。その半年前に誕生日に買ってもらったウクレレで加山雄三さんの「お嫁においで」を覚えました。先日のコンサートでも演奏したのですが、指が自然に動いて驚きました。

**田村** 「かぐや姫」は「神田川」が

ヒットして間もなく解散し、「風」も人気絶頂の頃にソロ活動に移っています。音楽のジャンルもフォー

クから大人向けのロック的なものへと変わっていくのですが、伊勢さんは、守りに入らないというか、チャレンジし続けている印象があります。

**伊勢** 自分の習性なのでしょうね。特に「風」のときは、本当に好きなことをやるうと思っていました。実は、ファーストアルバムに「22才の別れ」は入っていません。オリコン一位になった曲をデビューアルバムに入れないというのは意識的に行いました。

**田村** 「22才の別れ」の力を借りずに売るんだ、と。

**伊勢** レコード会社から猛反対されたんですが、「これでどうですか」という感じで「海岸通」という曲を作りました。「風」はそういうグループだと示したかったんです。

**田村** 早くからシンセサイザーを取り入れるなど、そういった面でも先進的ですね。

**伊勢** アップル (Apple Inc.) のコンピュータが日本に初めて入ってきたとき、訳も分からずに買

ました。

僕は、曲のイメージをアレンジャーに分かってほしくて必ず自分のデモテープを作っていたのですが、例えばチェロを弾きたいなと思っても、すぐには習得できません。でも、コンピュータを使えばチェロの音を出せるかもしれない。簡単なプログラミングで自分ができることをやらせる方法を考えながら、コンピュータに没頭していったのです。

**田村** 最近ではAIが対話形式で応答してくれるチャットGPTが話題ですが、音楽においてもデジタル化の影響は大きいように思えます。

**伊勢** チャットGPTは出るべくして出たな、と思いましたね。というのも僕は昔、作詞マシーンを作ろうとしたことがあるのです。

メロディーが先にある、そこにはまる言葉を探しながら詞を書くのが僕のスタイルですが、どうしてもここにあと四文字足りないな、ということがあります。そういうときに、「四文字の言葉」と打てばランダムに言葉が出てくるようにコンピュータでプログラミングしました。

**田村** ということは、実はそのようにしてできた曲があるということでしょうか。

**伊勢** いや、それが一回もないんです。色と言葉を組み合わせて、「悲しい」はブルー、「より悲しい」は紫に近いブルーというような登録を考えたりしたのですが、あれこれ考えているうちに、「結局、人間の頭ほど優れたコンピュータはない」と気付いたのです。だから、作詞マシーンを作ってもしょうがないな、と。

**田村** 伊勢さんの詞は言葉の選び方、使い方を通じて、そのシーンや登場人物の心情などをとても鮮

(注1) 南こうせつ／一九四九年大分県出身のシンガーソングライター。代表曲に「神田川」「赤ちようちん」「妹」「夢一夜」など多数。

(注2) かぐや姫／一九七〇年に南こうせつを中心に結成されたフォークグループ。後にメンバーの変更があり、七一年に伊勢正三、山田パンダと再結成した。

(注3) 中二病／一九九九年にタレントの伊集院光がラジオ番組で使い始めた、思春期に特有の行動や言動などを一過性の病気に見立てた造語。

(注4) 風／一九七五年に結成された伊勢正三、大久保一久によるフォークデュオ。七九年に活動休止。

やかに伝えていきます。

**伊勢** 歌を作るモチベーションというのは、何か心が動いたときです。それで、これを映画にしてみようかと思うんです。それが僕の歌作りです。

まず、直感でメロディーがふと浮かぶ。僕はよく「降りてくる」と言っています。クラウド(注5)みたいなものがあつて、すでにそこに曲はできているんです。例えば「なごり雪」という歌が。

**田村** それを取り出すということでしょうか。

**伊勢** 自分がそのクラウドにつながれるかどうか。本当に真面目に取り組み、集中したときに、そこと通信できるという感じですよ。

そこには、誰かの心を打つ、良いものになる塊のようなものがあります。そこにアプローチできるかどうかが大変なんです。

## 造語だった「なごり雪」が半世紀を経て 国語辞典に載った

**田村** 「なごり雪」といえば、それまでの日本語にはなく、伊勢さんが作った言葉ですよ。

**伊勢** 僕が書きたかったのは、その季節の最後に降る雪、積もらなくて落ちては溶けるはかない雪のイメージです。それで、あえて「なごり雪」としたのですが、二〇一三年に日本気象協会の「三月のことば」に入れていただきました。それだけでも嬉しかったのに、今回、三省堂国語辞典の第八版に、正式に日本語として加えていただきました。その由来には「ミュージシャン・伊勢正三の造語」とまで書かれています。

**田村** 素晴らしいですね。われわれ日本銀行は金融政策という難しいことを分かりやすく伝えていかなければなりません。どいう言葉を使えば良いのかという悩みがあります。その点、伊勢さんの言葉の選び方は絶妙です。どのように工夫されているんでしょうか。

**伊勢** 過激な言葉を選んだ時代もありましたが、真意を伝えたい、という思いが強いです。二〇一九年に出したアルバム『Reborn』に収めた「俺たちの詩」は、完成するのに一〇年かかっています。自分の中にあつたテーマで、サビは

できていたけれども進まずにいたのが、ある日突然書けるようになりました。

**田村** そのアルバムの中の「小さな約束」という曲の一節にある「さよならするくらいなら 他には何もいらぬ」のようなストレートな詞も非常に印象深いです。昔のご経験ですか。

**伊勢** 「なごり雪」や「22才の別れ」なんかも本当にあつたことなのかとよく聞かれるのですが、はっきり言って全部作り話です。ただ、そのどこかに自分の経験が入ってくるんですね。ホームで別れて悲しかったよな、とか。そのモードをモチベーションにして、先ほど話したクラウドみたいなものになろうとするんです。そうすると、少なくともメロディーはすぐに作れます。

**田村** 歌詞のほうが大変ということですか。

**伊勢** 自分自身も納得した形で周りにもアピールできるような歌詞にするのは大変ですね。時間をかければ良いというものではなく、やはり集中力が大事だと思います。

## 自分の心の琴線に触れてから 世の中に伝えていく

**田村** これまでの音楽活動の中で、何度か休養のような期間を設けられています。その間に何をなさっていたのですか。

**伊勢** 個人的な趣味が多いです。フライフィッシングとか。みんな休養とか充電とか言いますが、僕は放牧と言っています。三〇代で一〇年間ぐらいメディアに出なかつたとき、トロピカルに興味を持ち、極めたいと思って一人旅に出たこともあります。

**田村** 南太平洋の島とかでしょうか。

**伊勢** 計画もなしにまずハワイに出かけ、最終的にはタヒチのボラ島まで行きました。そこで滞在したホテルの従業員と仲良くなり、ウクレレを一緒に弾いたり、サメにエサをやりに行ったりしました。今思えば、そうした経験がその後の音楽につながりましたね。

**田村** 確かにトロピカルな歌は多いですね。

**伊勢** ラテンのリズムが好きなんです。僕は演奏面では裏のリズムが好きだから、ギターを弾くス



トロークもこだわっていました。

**田村** 実は、大学三年生のときに伊勢さんを学園祭にお呼びし、楽屋番をやらせていただいたことがあります。

**伊勢** その学園祭のコンサートは覚えています。皆さんが聞きたい曲をほとんどやらなかった記憶がありますね……。

**田村** アルバム『北斗七星』が出た後でしたので、新しい曲ばかりでした。楽屋では二時間くらいぶっ続けてギターを練習されていて、すごいものだなと驚かされました。

**伊勢** 当時はたぶん難しいことをやっていたし、サウンド志向に走ったところもありました。

**田村** 最近でも新曲のアルバムを出されたり、ファンとしては嬉しい限りです。

**伊勢** 流行り廃りにとらわれないように心がけています。恵まれていることに僕の場合は作品が残るので、とにかく納得するものを作ることを意識しています。何年かに一回はメッセージソングを出さなければと思っています。

**田村** フォークシンガーだから。

**伊勢** はい。アルバム『Reborn』に収録されている「風の日の少年」の「未熟な果実が雨にうたれても嵐の中でも落ちない……」という歌詞は自分でもよく書けたと思っています。人の琴線に触れるようなものって意識して作れるものではないので、まず自分の琴線に触れて、それを伝えたいと思っています。

**田村** 日銀審議委員としてもそうですね。自分が心底こうだと思ふことを発言しないと伝わらないと思います。

ところで、流行り廃りではない

ということでは、校歌も作っていないんじゃないですか。

**伊勢** 僕の母校の大分県津久見市立第一中学校と第二中学校が来春に統合する計画があり、その校歌の依頼を受けました。光栄で名誉なことでもあり、責任を感じます。すでに作らせていただいた小中学校では、生徒たちとも随分交流させてもらいました。

**田村** 嬉しいことですね。秋に出されるアルバム『STILL MORE』に収録されるみたいなので、楽しみにしています。

交流といえば、新型コロナウイルスの影響を受けたこの三年間は人とのつながりを再認識する期間だったように思いますが、伊勢さんにとってコロナ禍はどのようなものでしたか。

**伊勢** 過去のライブ音源のアーカイブを聴き直し、自分自身を見つめ直す良い機会でした。振り返ってみると、そのときにしかできないことをちゃんとやってきたんだなと確認でき、結局は、エネルギーに満ちてやりたいことをやればいんだ、という結論に至りましたね。

**田村** まだまだ新しい伊勢正三を

期待しています。

**伊勢** みんなそれぞれ持ち場があると思うんです。楽しいからやっているんだけど、そうは言ってもほほ苦しいです。これほど続けてきてもライブではいまだに緊張しますし……。いざ始まると解放感や幸福感を味わえるのですが、その境地に至るまではほほ苦しいです。楽をしていい目を見ることなんてあり得ないですから。みんなどこかできっちり努力して、それぞれの仕事をやっているんだと思います。

**田村** まさに、「終りのない唄」(注⑥)の世界そのものですね。コンサートに行くと、同世代や少し上の人たちが本当にニコニコしていて、元気が湧いてきます。本日はお会いできて光栄でした。

(注⑤) クラウド／ユーザーがアプリケーションやストレージなどのコンピュータ資源を、インターネットを介して利用する仕組みのこと。

(注⑥) 終りのない唄／伊勢正三作詞・作曲。一九七六年の「風」のアルバム『時は流れて……』に収録。「唄うことがとても苦しいものだと思った。それでも僕は唄ってゆきたい。誰かが聞いてくれる限り」と歌う。



## 日本銀行のレポートから

日本銀行は、1月、4月、7月、10月の政策委員会・金融政策決定会合において、先行きの経済・物価見通しや上振れ・下振れ要因を詳しく点検し、そのもとでの金融政策運営の考え方を整理した「経済・物価情勢の展望」（展望レポート）を決定し、公表しています。また、展望レポートの内容を、より幅広い読者に伝えるための取り組みとして、そのポイントをイラストとともに簡潔に整理した資料（ハイライト）を公表しています。本稿では、2023年7月の展望レポート（基本的見解は7月28日、背景説明を含む全文は7月31日公表）のハイライトをご紹介します。

\*全文は、日本銀行ホームページに掲載されていますので、ご関心のある方は、ぜひそちらもご参照ください。

<https://www.boj.or.jp/mopo/outlook/index.htm>



### 「経済・物価情勢の展望」（展望レポート・ハイライト）

2023年7月



**日本経済は  
緩やかな回復を続ける**

日本経済は、海外経済の回復の鈍さにより下押しされませんが、消費の増加などに支えられて、緩やかな回復を続けていきます。

**物価は減速したあと  
再び緩やかに上昇していく**

消費者物価の前年比は、これまでの輸入物価の上昇を起点とする価格転嫁の影響が弱まることで減速したあと、経済が改善し、賃金上昇率も高まるもとで、再び緩やかに上昇していきます。





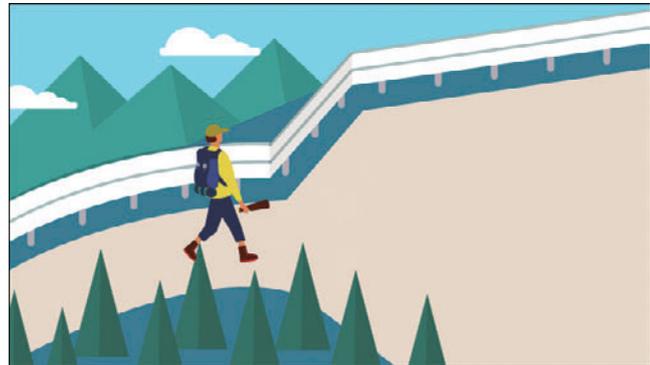
### 日本経済・物価を巡る 不確実性は高い

海外の経済・物価動向、資源価格の動向、企業の賃金・価格設定行動など、日本経済・物価を巡る不確実性はきわめて高い状況です。また、金融・為替市場の動向と日本経済・物価への影響にも十分注意を払う必要があります。



### 強力な金融緩和を 継続する

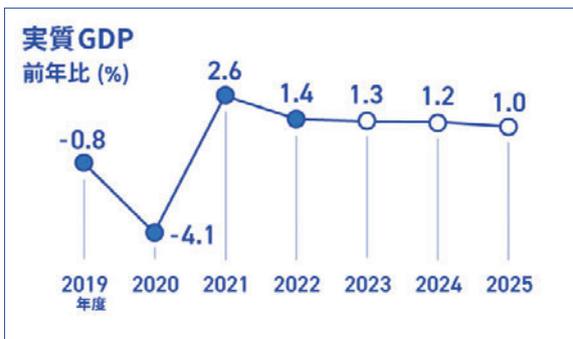
賃金の上昇を伴う形で、二%の「物価安定の目標」の持続的・安定的な実現を見通せていないため、粘り強く金融緩和を継続していきます。



### YCCの運用を柔軟化

イールドカーブ・コントロール（YCC）の運用を柔軟化し、YCCによる金融緩和の持続性を高めることを決定しました。

## 政策委員の経済・物価見通し



(注) ●は実績値、○は見通しです。

# 新しい日本銀行券の発行

日本銀行発券局

日本銀行では、財務省や国立印刷局とともに、二〇二四年七月前半に新しい日本銀行券の発行を開始する準備を進めています。約二〇年ぶりの改刷かいさつです。新しいお札には、最新の偽造防止技術を搭載し、また、どなたにも、より分かりやすいものとなるよう、券種の識別性を高める「ユニバーサルデザイン」を従来以上に活用しています。改刷を来年に控えた今、この新しい日本銀行券についてご紹介しています。

## 振り向く偉人たち〜最先端の技術〜

「あれっ？人の顔が動いて見えるような気がする」……それは気のせいではありません。本当に、顔が動いています。

皆さまにこうした体験をお届けする、新しい日本銀行券の発行開始まで、あと一年を切りました。

三次元の肖像が回転して見えるホログラム



### ■一万円券



新しい一万円券の肖像は、NHKの大河ドラマ「青天を衝け」(二〇二二年放送)の主人公、

### 一万円券

これが、「日本の新しい顔」のデザイン！

### ■五千円券



裏面には、植物のフジ(藤)が描かれています。古事記や万葉集にも登場する、日本でも古くから広く親しまれている花です。

### 五千円券

新しい五千円券の肖像は、津田塾大学の創立者、津田梅子です。わが国で最初の女子留学生の一人で、近代的な女子高等教育の発展に尽力された方です。裏面には、東京駅(丸の内駅舎)が描かれています。日本銀行本店本館の設計者でもある辰野金吾たつのきんごの設計により一九一四年に竣工した歴史的建造物の一つで、国の重要文化財です。外交にも尽力された方です。

## 千円券

新しい千円券の肖像は、北里柴三郎きたざとしばさぶろうです。世界で初めて破傷風菌の純粋培養に成功し、破傷風血清療法を確立したほか、私立伝染病研究所（現・東京大学医科学研究所）、私立北里研究所を創立し、野口英世など後進の育成にも尽力された方です。

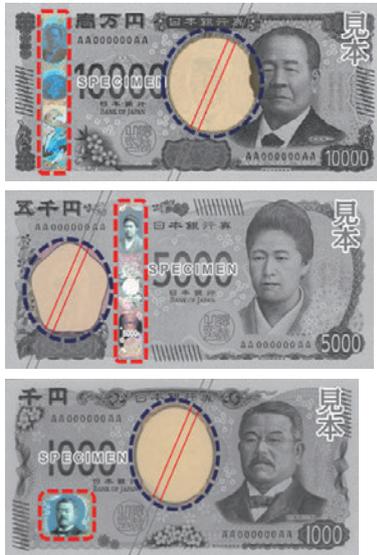
### ■千円券



### 特殊詐欺にご注意を！

二〇二四年七月前半に新しい日本銀行券が発行されたあとも、現行の日本銀行券（福沢諭吉の一万円券、樋口一葉の五千円券、野口英世の千円券）は、引き続き、通用します。「現行の日本銀行券が使えなくなる」などと騙る詐欺行為にはご注意ください。

### ■ホログラム・すき入れのかたち・配置



裏面には、富嶽三十六景「神奈川沖浪裏」が描かれています。浮世絵師葛飾北斎の代表作であり、多くの芸術家に影響を与えた作品です。

### 誰もが分かりやすいユニバーサルデザイン

新しい日本銀行券は、券種の識別性を高める「ユニバーサルデザイン」を従来以上に活用しています。例えば、額面のアラビア数字を大きくして、ひと目で、読み取れるようにしています。

また、ホログラムやすき入れについて、そのかたちや配置をお札の種類ごとに変えることで、それぞれを識別しやすくしています。

デコボコした識別マークは、一本の斜線に形状を統一し、指で触って、より読み取りやすくする一方、お札の種類ごとに位置を変えています。

### ■識別マークの位置



### ■識別マーク



## 世界に誇る偽造防止技術

次に、新しい日本銀行券に搭載している偽造防止技術を紹介します。手にしたお札（もどき？）が本物か偽物かを確かめるポイントですので、「おかしかな？」と感じたら、チェックしてください。

### 1. 「触って、分かる」

お札の用紙は、古くから和紙の原料として使われている「みつまた」などをもとに作られています。ほかにはない独特の色や風合い、

触感が特徴です。また、触ると、盛り上がったインキがざらざらしています(深凹版印刷)。

## 2. 「透かして、分かる」

従来からある肖像のすかしのほか、肖像の背景にすき入れ模様(高精細すき入れ)を入れていきます。これをお札に施すのは世界で初めてです。このほか、お札の種類ごとに本数が異なる、縦棒のすかし(すき入れパターン)も入っています。

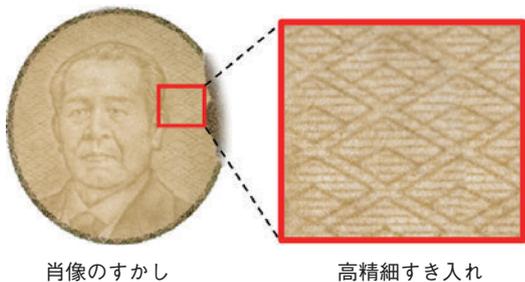
## 3. 「傾けて、分かる」

お札を傾けると、三次元の肖像が回転して見えます。この回転する3Dホログラムもお

札への搭載としては世界初です。  
なお、ホログラムは、現行の日本銀行券では一万円券と五千円券のみですが、新しいお

札では千円券にも採用しています。  
このほか、傾けると、額面数字(表面)やNIPPONの文字(裏面)が浮かび上がる

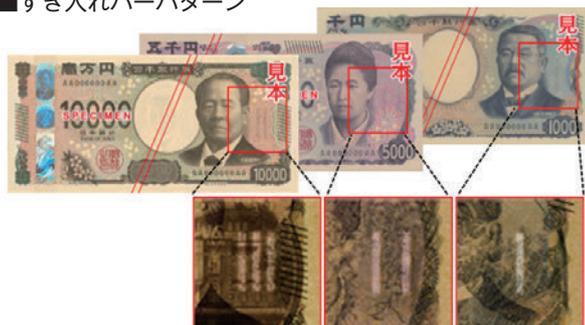
### ■すかし



肖像のすかし

高精細すき入れ

### ■すき入れパターン



左/一万円券(3本)  
中央/五千円券(2本)  
右/千円券(1本)

### ■3Dホログラム

一万円券

①三次元の肖像が回転



②山桜が文字や数字に変化



③桜が回転



④数字の位置が移動



千円券 三次元の肖像が回転



五千円券

①三次元の肖像が回転



②鞠(まり)が移動



③桜が回転



④数字や模様の色が変化



### ■マイクロ文字



一万円券の表面の一部



一万円券の裏面の一部

### ■特殊発光インキ



### ■サンプル券の読み取りテスト



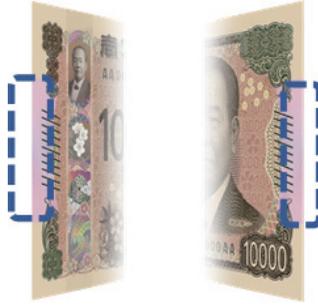
自動販売機で使用する識別機



スーパーマーケットのレジ等で使用する自動釣銭機

本銀行としては、引き続き、皆さまが安心してお札を使っていただけるよう、日本で唯一、銀行券を発行する発券銀行として、新しい日本銀行券の円滑な発行に向け万全を期してまいります。

### ■パールインキ



### ■潜像模様



表面の下部（一万円券）  
額面数字「10000」



裏面の右側（一万円券）  
「NIPPON」の文字

潜像模様や、表面の左右両端がピンク色に光るパールインキといった高度な技術を用いています。

### 4. 「道具を使って、分かる」

肉眼では見えず、コピー機では再現できないほど小さなマイクロ文字や、紫外線を当てると発光する特殊なインキが使われています。

### 安心してご利用していただくために 金銭機器の準備をサポート

お札の入手やその使用に当たっては、ATM、スーパーマーケットのレジ、自動販売機といった金銭機器が利用されています。このため、これらの金銭機器の多くが、こ

れまで本稿でご紹介してきた新しいデザイン、新しい偽造防止技術のお札を正しく読み取ることができるよう、発行開始に先立って対応が整っている必要があります。

日本銀行は、国立印刷局、財務省と連携し、金銭機器メーカーを対象とした新しいお札の「読み取りテスト」の機会を提供しました。こうした取り組みなどを通じて、世の中にある私たちの生活に身近な各種の金銭機器で、新しいお札を使えるようにするための開発や改修が着実に進められるようにサポートしています。

### 日本で唯一の発券銀行として

新しいお札が将来にわたって皆さまの暮らしの中で大切な役割を担い続けることは間違

いありません。日

本銀行としては、

引き続き、皆さま

が安心してお札を

使っていただける

よう、日本で唯一、

銀行券を発行する

発券銀行として、

新しい日本銀行券

の円滑な発行に向

け万全を期してま

います。

# なぜ、why?

## 新しい日本銀行券の発行（改刷）の理由

近年、キャッシュレス決済が広がってきていますが、現金へのニーズは依然として高く、日本銀行券の発行残高は増加の一途をたどっています。

日本における現金ニーズの高さの背景には、低金利で現金が預貯金に向かいづらい、先行きの不確実性から予備的に現金を保有しているといった事情に加えて、クリーンで偽造の発生件数が少ない現金への信頼性の高さといった事情もあると考えられます。近年は、災害時等における決済手段として、あらためて現金の重要性が着目されるようになっていきます。

こうしたもとで、誰でも、いつでも、どこでも、安心し

て使える現金は、今後とも、

国民生活や経済活動において、大きな役割を果たしていくものと考えられます。現金に対する需要がある限り、日本銀行としては、皆さまが安心して使える現金の供給を、責任をもって続けていく方針です。

こうした中、現行の銀行券の発行を開始した二〇〇四年十一月から約二〇年が経過しています。この間、市販のコピー機などの印刷技術は大幅な進歩を遂げており、偽造の潜在的リスクが高まっています。また、世界的にみると、誰もがより利用しやすい「ユニバーサルデザイン」に力を入れた銀行券の発行が進められています。

今回の改刷は、このような状況を踏まえ、独自性と先進

性を備えた最新の偽造防止技術を搭載した銀行券を新たに発行することで、中長期的な偽造抵抗力を確保するとともに、どなたにも、より分かりやすいものとするのが目的です。

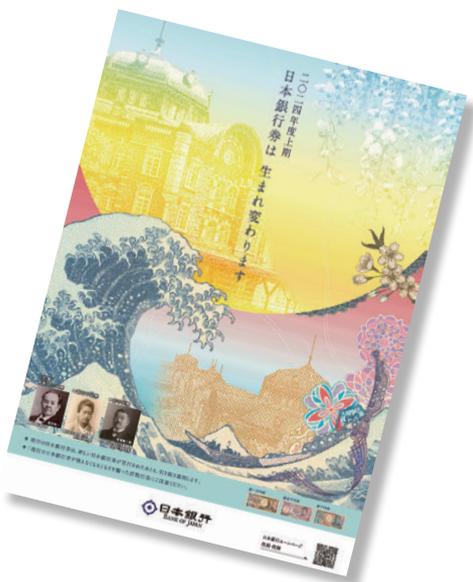
なお、わが国では、主要国と比べて長めの改刷サイクルとなっていて、三券種（二万円券、五千円券、千円券）同時に改刷することや券面のサイズを現行の銀行券から不変とすることなどで、世の中の改刷に要するコストをできるだけ抑制するよう工夫しています。

### ご注意ください！

新しい日本銀行券が発行開始されても、皆さまがお近くの金融機関で入手可能となるには、発行開始日以降、数日程度を要するものと見込まれます。それまでの間、楽しみにお待ちいただければ幸いです。

## 新しい日本銀行券を ご覧になりませんか

今回ご紹介した新しい日本銀行券の見本は、二〇二三年四月より、日本銀行貨幣博物館（東京都中央区）と日本銀行金融資料館（北海道小樽市）で展示しています。また、全国の日本銀行の支店でも、一般見学にお越しただいた際に、見本をご覧いただくことができます（具体的な開始時期やお申し込み方法は、各店で異なりますので、詳しくは各店のホームページをご覧ください。なるか、各店までご連絡ください）。



（二〇二三年九月上旬時点の情報をもとに記載）



# 日本銀行のレポートから

日本銀行では、本支店・事務所が企業への聞き取り調査等を通じて行っている各地域の経済金融情勢に関する調査の結果を、「地域経済報告」（さくらレポート）として、年4回（1月、4月、7月、10月）の支店長会議の機会ごとに取りまとめています。また、今回取り上げる「地域経済報告」（さくらレポート）別冊シリーズは、地域経済の中長期的な構造問題に重点を置き、その時々々の景気情勢に焦点を当てている「地域経済報告」を補完する位置づけの調査です。

\*全文は日本銀行ホームページに掲載されています。 <https://www.boj.or.jp/research/brp/rer/index.htm>



## 「地域経済報告」（さくらレポート）

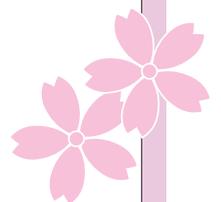
### I. 各地域の景気判断の概要

—二〇二三年七月—

既往の資源高の影響などを受けつつも、すべての地域で、景気は持ち直し、ないし、緩やかに回復している。

	【23/4月判断】	前回との比較	【23/7月判断】
北海道	緩やかに持ち直している	➡	緩やかに持ち直している
東北	一部に弱さがみられるものの、基調としては緩やかに持ち直している	➡	一部に弱さがみられるものの、基調としては緩やかに持ち直している
北陸	持ち直している	➡	持ち直している
関東甲信越	資源高の影響などを受けつつも、感染症の影響が和らぐもとので、持ち直している	➡	持ち直している
東海	緩やかに持ち直している	➡	持ち直している
近畿	一部に弱めの動きがみられるものの、感染症抑制と経済活動の両立が進むもとので、持ち直している	➡	一部に弱めの動きがみられるものの、持ち直している
中国	緩やかに持ち直している	➡	持ち直している
四国	緩やかに持ち直している	➡	緩やかに持ち直している
九州・沖縄	持ち直している	➡	緩やかに回復している

（注）前回との比較の「➡」、「➤」は、前回判断に比較して景気の改善度合いまたは悪化度合いが変化したことを示す（例えば、改善度合いの強まりまたは悪化度合いの弱まりは、「➤」）。なお、前回に比較し景気の改善・悪化度合いが変化しなかった場合は、「➡」となる。



## Ⅱ. 別冊「地域の企業における

### 人材確保に向けた取り組み」

—二〇二三年六月—

#### 1. はじめに

経済活動の改善が進むもとで、わが国の企業の人手不足感は強まっている(図表1)。企業規模や業種別に欠員率をみると、総じて新型コロナウイルス禍を上回っているが、中でも中小企業、特に宿泊・飲食をはじめ、新型コロナウイルス禍で大きな影響を受けた対面型のサービス業において顕著に上回っている(図表2、3)。こうしたもとで、一部では事業活動が制約されるなどの影響も指摘されており、人材の確保は大きな経営課題として企業に意識されるようになってきている(図表4)。

こうした中、日本銀行では、本支店・事務所において聞き取り調査(注)を実施し、まず人手不足の実情とその背景を把握したうえで、地域の企業が人材の確保に向けてどのような取り組みを進めようとしているのかについて取りまとめた。本稿では、主に新型コロナウイルス以降の変化を中心に整理する。

#### 2. 人手不足の現状と事業活動への影響

##### (1) 企業の人手不足感の強まりとその背景

わが国の企業の人手不足感は強まっている。特に若年層、DX人材な

どの専門人材、宿泊・飲食等の対面型サービスの現場に従事する人材などの不足感を指摘する声が多い。

主な背景としては、まず、経済活動の改善が進む一方、少子高齢化が進み、女性・高齢者の労働参加も既に相応に進んでいる中で、追加的な労働供給の余地が縮小していることもあって、マクロの労働需給がタイト化していることが挙げられる。また、デジタル化・脱炭素化といった事業環境の変化に対応するための専門人材の需要拡大や、新型コロナウイルス禍を契機とした労働者側の就業意

図表 1 人手不足感の強まり

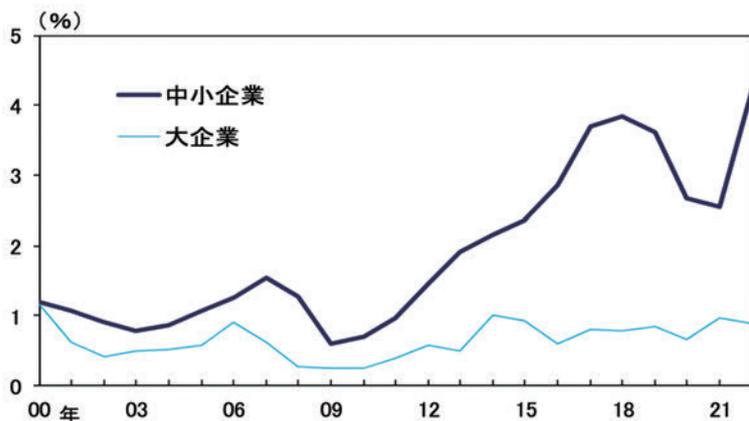
(「過剰」—「不足」・%ポイント)



(出所) 日本銀行

(注) 調査期間は二〇二三年二月～五月前半。本支店・事務所によるヒアリング先数は約二〇〇〇先。

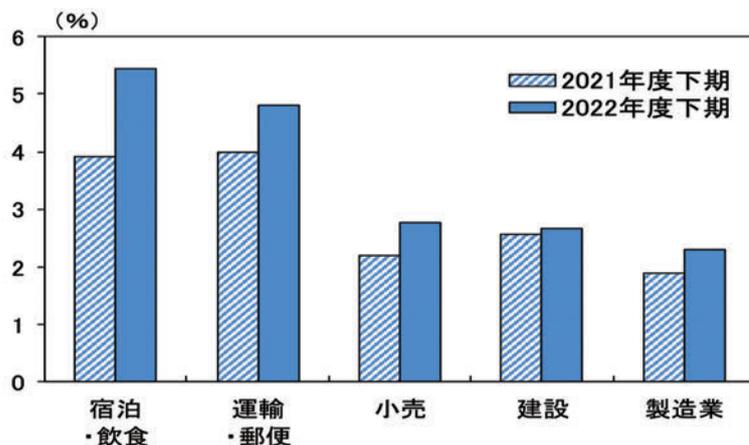
図表 2 一般労働者の欠員率



(出所) 厚生労働省

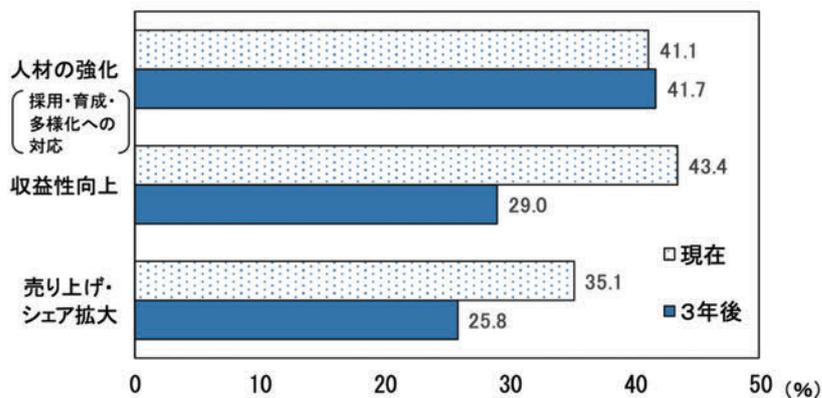
(注) 2022年は上半期の値。大企業は常用労働者数が1,000人以上、中小企業は同5～99人の企業。

図表 3 業種別の欠員率



(出所) 厚生労働省

図表 4 企業の経営課題に関する認識



(出所) 一般社団法人日本能率協会「日本企業の経営課題 2022」

(注) 回答企業は、想定される20項目の経営課題のうち、「現在」および「3年後」について、重要度の高い順に3つを選択。

識の変化——新型コロナ禍で収入の不安定さや感染リスクを意識する傾向、あるいは在宅勤務などの柔軟な働き方を重視する傾向——によるミスマッチの拡大を指摘する声も

多く聞かれている。  
このほか、パート時給相場の上昇により、パート労働者の一部でいわゆる「年収の壁」を意識した就業時間抑制の動きがみられることや、運輸・

建設業では、働き方改革への対応を進める過程において人手不足感が強まることを指摘する声も多く聞かれている。  
こうした中で、転職が増えている

ことも、特に採用面の競争力に不安を抱く地域の企業を中心に、人手不足感を強める一因となっている。転職市場の動向をみると、企業側では、新卒の採用難や専門人材のニーズの

高まりから、経験者採用を積極化しているほか、求職者側でも、自らの志向に合った仕事を探し直す動きが広がっていることから、需給両面で拡大している。こうした中で、民間の転職支援サービスの充実もあって、潜在的なニーズが実際の転職に結びつくケースが増加しており、これがさらに、若年層を中心に転職に対する心理的ハードルを引き下げるといった形で転職市場の拡大が加速しているようにも窺われる。

## (2) 事業活動への影響

こうした雇用環境が事業活動に及ぼす影響についてみると、特に人手不足感の強い宿泊・飲食などを中心に、客室や座席数などの設備稼働率を意図的に抑制せざるを得ず、需要の取りこぼしが現に生じているといった声が多く聞かれている。こうした中、「客入りの調整」を目的として挙げつつ、繁忙期の価格を大幅に引

き上げる動きもみられる。

先行きについても、製造業・非製造業を問わず、人手不足が事業を展開するうえで制約になることへの懸念が聞かれている。具体的には、インバウンド需要などの更なる回復に十分に答えられないといった声や、新規出店や新たな生産拠点の建設などを計画するにも人員がボトルネックになるといった声が聞かれている。

## 3. 企業の人材確保に向けた取り組み

こうした中、企業では人材の確保に向けて様々な取り組みを進めている。まず、(1) 賃上げを中心とした処遇改善を進めるとともに、(2) 人材獲得チャネルの多様化が模索されている。また、(3) 継続的な賃上げに向けた人事制度改革などの対応もみられ始めている。以下では、これ

らの取り組みについて具体的にみていくこととする。

(1) 賃上げを中心とした処遇改善  
人材の確保のため、企業では従業員の処遇改善を進めており、①賃上げのほか、②福利厚生の実や柔軟な働き方の推進など勤務環境の改善に取り組む動きがある。

### ① 賃上げの動き (パート等の非正規社員)

パート等については、先にみた人手不足感の強まりを受けて、最低賃金以上に時給を引き上げる動きがみられる。こうした動きは、大企業における大幅な時給引き上げや、外資系企業がグローバルに同一の高賃金を提示していることなどによっても後押しされている。

#### (正社員)

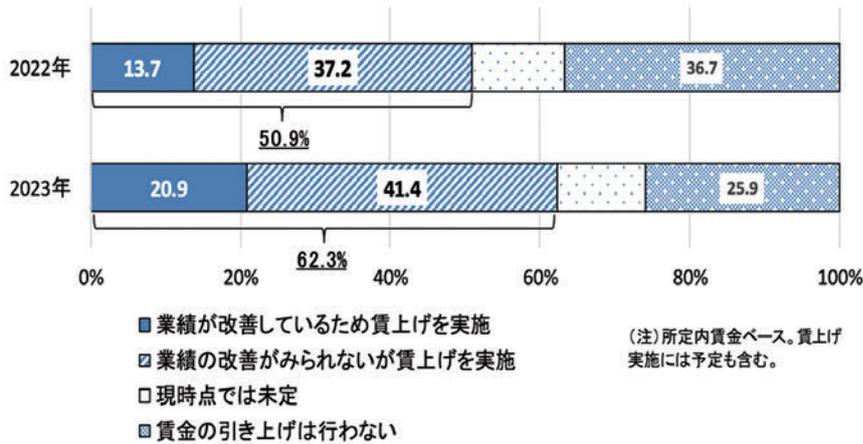
正社員については、人手不足感の強まりや物価上昇を受けて、ベア

を含めた賃上げの動きが広がっている。特に若年層については、先にみたように人手不足感が強いほか、転職リスクが警戒されるもつで、賃金を大きめに引き上げる動きがみられる。

この間、中小企業を中心に、原材料価格等の上昇などに伴う収益面・財務面の厳しさから賃上げに慎重な声は相応に聞かれている。もつとも、先にみたようにパート等の時給が引き上げられるもつで、これに合わせ正社員でも給与面の対応が必要との認識や、域内の大企業が大幅に賃上げを進める中で人材確保のために賃金格差の拡大は避けたいとの意識から、収益面・財務面の余裕が乏しいとする先も含め、賃上げに踏み切る動きが広がっている(図表5、6)。

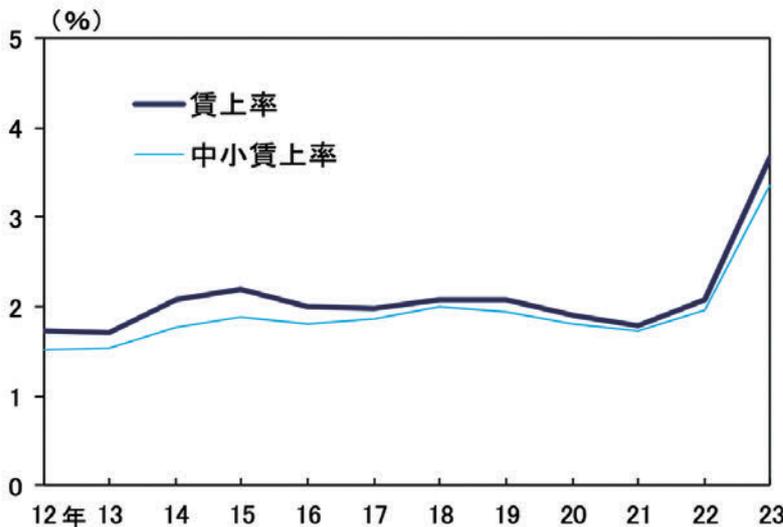
こうした中、このところ、賃上げを進める企業の間では、賃上げの原資の確保のために、値上げを進める動きもみられ始めている。

図表 5 中小企業等の賃上げ動向



(出所) 日本商工会議所「商工会議所 LOBO (早期景気観測) 2023 年 5 月調査結果」

図表 6 賃上げ率



(出所) 日本労働組合総連合会

(注) 2012～2022年は6月末の最終集計結果。2023年は6月1日時点。平均賃金方式(加重平均)による定昇相当込みの賃上げ率。

賃上げの持続性に関しては、コスト負担が意識されるもとで、本年度に限った一時的な対応となる可能性を指摘する声がある。その一方、先

② 勤務環境の改善

こうした賃上げのほか、福利厚生

確保のためには継続的な賃上げが必  
要との声も聞かれている。

の充実や柔軟な働き方の推進など、勤務環境の改善に取り組むことで、企業の魅力を高めようとする動きも多々みられている。具体的には、保育手当や託児所設立など子育て世代

を念頭においた取り組みがあるほか、働きやすさの観点から柔軟な勤務時間調整を可能とする動きもある。また、新型コロナ禍を経て在宅勤務を希望する求職者が増えたことを踏まえた在宅勤務の導入のほか、新たな制度休暇を創設する動きなどがみられている。もともと、地域の企業では、就労者側のニーズの変化に企業側の意識改革が追いついておらず、潜在的な労働力を掘り起こされていない可能性も指摘されている。

(2) 人材獲得チャネルの多様化

企業では、こうした労働者の処遇改善と並行して、人材獲得チャネルの多様化も模索している。特に、即戦力人材や専門人材の獲得を期待して、経験者採用や副業・兼業人材の登用を拡大する動きがあるほか、一度退職した人材の復職(アルムナイ採用)、既存従業員からの紹介(リフ

アラル採用)を強化する動きもある。さらに、M & Aや事業承継により、事業と人材の双方を獲得することで自社の競争力の向上につなげる動きもある。

このほか、高年齢者雇用安定法の改正に合わせた定年延長等の動きがみられるなど、シニア層の一段の活躍を推進する動きや、専門性の高い外国人の採用を強化する動きもみられる。

(3) 継続的な賃上げに向けた対応  
先にみたように、人手不足は今後も続くとして、人材確保のため、収益力の向上を伴う継続的な賃上げを目指す企業もみられ始めている。こうした先では、①ジョブ型雇用の導入などの人事制度改革を進める動きや、②リスクリング等による従業員の能力開発を支援する動きもみられている。

#### ①ジョブ型雇用の導入などの人事制度改革

収益力の向上を伴う継続的な賃上げを実現していくうえでは、人事制度改革も重要になるとの指摘が聞かれている。この点、例えば、若年層など特定の階層・職種における賃上げや、給与水準の高い外部人材の採用は、既存の年功序列型の賃金体系では対応が難しいとの声がある。また、経験者採用を行おうとしても、社内異動を前提とした伝統的な人事制度は、専門性の高い人材の採用に向きとの声がある。

こうした中、一定程度以上の規模の企業が中心ではあるが、従業員間で処遇面のメリハリをつけるとともに、人材の機動的な入れ替えを行いながら生産性の高い部門に労働力をシフトするなどして、企業の収益力を継続的に高めていくとする動きがみられている。具体的には、一部ではあるが役割や責任、必要な技能・

スキルを明確化しやすい職種・ポストを中心に、いわゆる「ジョブ型雇用」制度やそれに準じた雇用制度を導入する動きもみられ始めている。導入企業等からは、今後、ジョブ型雇用のメリットをさらに引き出すため、ポジシヨンごとの賃金の相場(市場価値)を共有し、企業と労働者がその相場観を前提に採用や転職ができるようになることが重要との指摘も聞かれている。

#### ②リスクリング等による能力開発の支援

また、収益力の向上のためには、従業員の能力・スキルの向上も併せて行う必要があるとの声も聞かれている。このため、リスクリング等による従業員の能力開発を支援するための環境整備など、人材育成を進める動きもみられる。具体的には、資格取得にかかる費用補助や独自の教育ツールを開発する動き、人材開発を積極化

させるための専門部署の設置のほか、勤務面の配慮など取り組みやすい環境を整える動きがみられる。

## 4. おわりに

先にみたように、企業からは、人口動態の変化等を踏まえると、先行きも人手不足感が高まりやすい環境は続くと思込む声が多く聞かれている。こうしたもとで、足もと窺われる企業の賃金・価格設定スタンスの変化が定着していくか、慢性的な人手不足のもとでの労働力の新規掘り起こしや高生産性部門へのシフト、従業員の能力向上等の動きが広まり、収益力の向上につながっていくかといった点に注目していく必要がある。併せて、産学官金の連携によって、こうした動きをサポートする取り組みもみられており、今後注目していきたい。



## 金融研究所貨幣博物館

## 特別展

## 「新しい日本銀行券二〇二四

## ―匠の技とデザイン―」開催

十一月二日(木)～

二〇二四年九月八日(日)

▼日本銀行は、二〇二四年七月前半をめぐりに、新しい日本銀行券を発行します。

▼本展示では、日本銀行券の新しい顔、**渋沢栄一・津田梅子・北里柴三郎**、そして新しい日本銀行券と江戸時代のお札の偽造を防ぐ技術などをご紹介します。

▼日本銀行券の偽造防止技術の源流は、日本各地でお札が発行されるようになった江戸時代にさかのぼります。江戸時代のお札に用いられた「紙に透かし模様を入れる」、「小さな文字を印刷する」といった偽造を防ぐ技術は、現在のお札にもつながっています。それらが分か

る江戸時代のお札をつくる道具も展示します。

▼本特別展を通して、新しい日本銀行券の特徴や、江戸時代から引き継ぎ発展させてきたお札の偽造防止技術をじっくりご覧いただけます。

※開館日等の情報は貨幣博物館ホームページをご覧ください。



偽造防止のため小さい文字の入った版木とお札（江戸時代）

## 「デジタルマネーの

## 私法上の性質を巡る

## 法律問題研究会」報告書の

## 公表について

▼民間が発行するデジタルマネーの種類や用途は多様化しており、それに併せて業法の整備は進展しています。他方、デジタルマネーの利用者の権利や、権利が移転する場合の法律構成について、私法上、どのように整理されるかについては、これまで必ずしも十分に議論されていませんでした。

▼日本銀行金融研究所では、昨年四月から十二月にかけて、民商法等を専門とする学者や実務家を招き「デジタルマネーの私法上の性質を巡る法律問題研究会」を開催し、「デジタルマネーの利用者の権利や移転の法律構成」といった私法上の性質について議論を行いました。そして、本年六月、研究会での議論の結

果を報告書として取りまとめ公表しました。

▼報告書では、現在普及しているデジタルマネーとして、資金決済法に定める資金移動業者と前払式支払手段発行者が提供するデジタルマネーを取り上げました。また、今後普及が見込まれるデジタルマネーとして、二〇二二年改正資金決済法で新たに認められた仲介者が存在する預金型・資金移動型デジタルマネーと電子決済手段（いわゆるステーブルコインの一部）を取り上げました。そして、マネーとしての安定性・流通性を確保する上では、デジタル資産に関する海外の立法動向も参考になること等を指摘しました。

▼報告書は日本銀行のホームページに掲載しておりますので、ご覧ください。



## 編集後記

■「なごり雪」や「22才の別れ」で有名なシンガーソングライターの伊勢正三さんと田村審議委員の対談では、人の琴線に触れる曲を紡ぎ出す過程を率直に語っていただきました。メロディーと歌詞へのアプローチの違いや、新たな技術を積極的に取り込もうとされる姿勢を興味深く伺いました。「楽しいからやっているんだけど、そうは言ってもほぼ苦しいです。楽をしている目を見ることなんてあり得ないですから」という言葉は皆さんの心に刺さったのではないのでしょうか。

■インタビューでは、関東大震災から100年を迎えるにあたり、人々と社会と対話する地震学者の大木聖子さんのお話を伺いました。この先、必ずM7クラスの地震が複数回起こるが、防災対策を適切に行えば多くの被害を回避できる。そのためには、実践的な防災教育が重要との熱い想いを語っていただきました。防災教育を通じ、単に地震に備えるだけでなく、子どもたちが命の大切さや自ら判断する力を身に付けられると伺い、自分の子どもにもぜひ受けさせたいと感じました。

■来年7月の新しい日本銀行券の発行まで1年を切りました。今号では新しい偽造防止技術などその特徴をご紹介します。解説を見ながら、実際手にする日を心待ちにいただければと思います。(小牧)

## [アンケート募集中]

「にちぎん」に関するご意見・ご感想は、アンケートよりお寄せください。日本銀行のホームページからインターネットでもアンケートにご回答いただけます。



※本誌は、全国の日本銀行本支店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。(https://www.boj.or.jp/about/koho\_nichigin/index.htm)

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解等については、日本銀行ホームページ(https://www.boj.or.jp)をご覧ください。

にちぎん 2023年秋号  
編集・発行人 小牧義弘  
発行 日本銀行情報サービス局  
〒103-8660  
東京都中央区日本橋本石町2-1-1  
☎03-3277-1609



デザイン 株式会社市川事務所  
印刷 株式会社アイネット  
禁無断転載

## 生活意識に関するアンケート調査を実施しています

▼日本銀行では、政策・業務運営の参考とするため、本支店や事務所を通じた広報活動の中で、国民各層の意見や要望を幅広く伺うよう努めており、その一環として一九九三年以

降、全国の満二〇歳以上の個人四〇〇〇人を対象に「生活意識に関するアンケート調査」を実施しています。

▼この調査は、「全国企業短期経済観測調査(短観)」のような統計調査とは異なり、生活者の意識や行動を大まかに把握する一種の世論調査です。

▼一度に多くの方から、生活に関する意識やご意見を伺うこと

とができるため、日本銀行の広報および広聴活動にとっても、非常に貴重な機会となっています。

▼調査は年四回(三、六、九、十二月)実施しており、公表結果は日本銀行ホームページに掲載しています。ぜひご覧ください。





金塊形のフィナンシェ

## 欧州で存在感を増すパリ金融市場

パリ近郊の金融集積地ラ・デファンスにある証券取引所ユーロネクスト・パリが欧州で存在感を増している。昨年には、上場企業の時価総額でパリ市場はロンドン市場を上回り欧州で首位になった。特徴として、時価総額の大きい高級ブランドグループが上場していることが挙げられる。

変化は株式市場だけではない。英国にあった欧州銀行監督機構もブレグジット（英国の欧州連合離脱）でフランスに移転した。今では、欧州証券市場監督機構とともに、金融分野の欧州3監督機関のうち2つが当地にある（残る欧州保険・企業年金監督機構はフランクフルトに所在）。

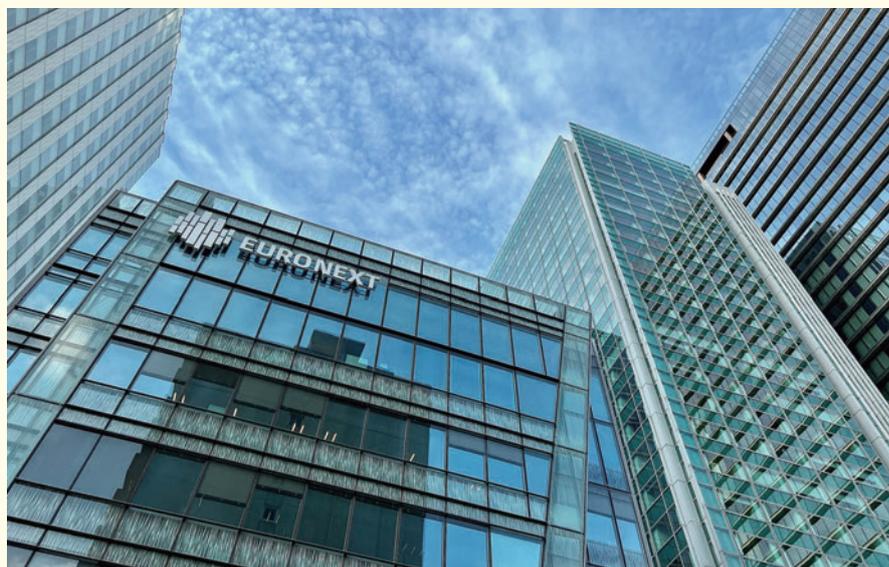
また、このような中で、外国金融機関ではトレーダーを中心に、フランスにおける拠点の人員を拡充する動きがみられている。その背景には、高等教育の充実や食を含む文化面など、パリという都市が魅力を有していることから、人材の確保が他国比容易ということもあるようだ。なお、食文化などで都市

に魅力があるという特徴は、同じく非英語圏の金融集積地である東京と重なる部分があるようにも思われる。

金融の話題に関連して、フランス菓子の一種で有名なフィナンシェについても言及したい。仏語のフィナンシェ（financier）は英語のファイナンス（finance）と似ていることからわかるように、金融家、金塊、お金持ち等の意味も有する。このお菓子がなぜフィナンシェという名になったかという、一説では、19世紀、パリ証券取引所付近に店を設けていたパティシエの知恵に辿り着くという。近所の多忙な金融関係者に喜んでもらうため、元々丸かったお菓子を小さな金塊形にアレンジし、指先を汚すことなく食べられるように工夫した結果、フィナンシェという名で世界中に広まったという話である。

食などの文化と金融は互いを育み発展させる関係にあるのかもしれない。（日本銀行パリ事務所）

\*本コーナーは海外で働く日本銀行職員または日本銀行からの出向者が執筆しています。



金融集積地に所在するユーロネクスト・パリ



にちぎん